

## （ そばづくりで、地域活性化を図る「荒神の里・笠そば」 ）

平成19年2月、「荒神の里・笠そば」（桜井市笠地区）が、内閣官房と農林水産省が実施している「立ち上がる農山漁村」に県内で初めて選定された。

「立ち上がる農山漁村」は、自らの創意工夫と努力により、元気な農山漁村を全国に紹介し、全国の地域の活性化を促す為に実施されている。

笠地区は、桜井市の北東部の標高400～500mの中山間地域にあり、棚田と段々畑で、米や夏季の涼しい気候を活かした野菜等の栽培が行なわれていた。

平成4年、笠土地利用組合のメンバーが、地元の気候と土に合い、手のかからない産物を検討し、そばを試験栽培した。質のよいそばが出来たことから、地域特産物にしようと、笠地区全戸参加の試食・説明会を開催、地元の理解と協力を依頼し、「笠そば栽培促進協議会」（栽培から加工・販売を担当）を翌年設立した。

平成6年より、挽きたて、打ちたて、ゆでたての生そばの店「笠そば処」（日曜日のみの営業）を開店した。

また、そばで地域おこしをしている、富山県利賀村、栃木県佐野市仙波などを視察した結果を踏まえ、地元の農産物、乾麺の製造・販売も始めた。

そばの花が咲く毎年9月、関西近郊の人たちと地元の人々が交流する「そばピクニック」を開催、そば畑の散策、試食、物品販売などを催し、参加者は毎年約3,000～4,000人を数える。

マスコミの取材もあり、来客数が増えてきたことから、平成9年からは営業日を土日、祝祭日、笠山三宝荒神の月例祭（毎月28日）とし、平成11年からは毎日営業（定休日：水曜日）とした。

平成14年、農林水産省の補助事業により、そば処をリニューアルオープンすることが決定、同年に有限会社「荒神の里・笠そば」を設立した。笠集落全戸が株主となり運営するユニークな会社で、区民全員が地域振興の拠点施設の運営に協力

するため、1軒あたり1株主という全員参加型の組織となっている。

平成15年、地域振興の拠点として新「笠そば処」が営業を開始、そば打ち道場も併設されている。来客数は、平成13年の47千人から平成17年の77千人と着実に増加している。

笠の自然、本物のそば、地区の人々の暖かいもてなしに惹かれ、都会から来るリピーターも増加している。

何でも手に入る時代だけに、他にない、ここでしか手に入らないものがあるから、活況を呈していると思われる。（上田）



平成15年に新築した「笠そば処」



9月に花をつける広大なそば畑

### これからの主な催し

〔主な行事〕

● 9月8日（土）12:00～20:30

2007 大和さくらい万葉まつり

<現代版 海石榴市>

昔、金屋地区で開かれた日本最古の市「海石榴市」にちなみ、人々の触れ合いの場を展開。

<歌垣火送り>

想いをのせた「夢灯ろう」「恋灯ろう」を初瀬

川に流し、夜の風情を楽しむ。

場所：金屋河川敷公園特設会場

問合せ：大和さくらい万葉まつり実行委員会

窓口（桜井市観光課内）

TEL：0744-42-9111（内線341）